令和７年７月４日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

トカラ列島近海の地震活動の評価（案）

○　７月３日16時13分にトカラ列島近海(悪石島(あくせきじま)の南西約20km)でマグニチュード(M)5.5の地震が発生し、鹿児島県十島村（としまむら）で最大震度６弱を観測した。この地震の発震機構は北北西—南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で陸のプレート内で発生した地震である。

○　トカラ列島の悪石島から宝島にかけての領域では、６月21日から地震活動が活発になり、６月30日18時33分にはM5.3、７月２日04時32分にM5.1、同日15時26分にM5.6の地震が発生し、それぞれ最大震度５弱を観測した。７月３日までに震度１以上を観測した地震が1,031回発生し、このうち、震度３以上を観測する地震が67回発生するなど、活発な地震活動が継続している。

○　ＧＮＳＳ観測の結果によると、宝島観測点で南南東方向に約４cmの水平変動が観測されるなど、今回の一連の地震活動に伴う地殻変動が観測されている。

○　今回の地震活動域の周辺は、過去にも活発な地震活動が継続したことがある地域であり、1995年12月、2000年10月、2021年12月に、それぞれ最大でM5.5、M5.9、M6.1の地震を伴う活動が観測されている。今回の一連の地震活動は、1995年以降に発生した地震活動の中で、最も地震回数が多い。

○　悪石島から宝島にかけての領域は活火山を含む火山列に位置しており、このような火山地域の過去の地震活動の例では、一連の活動の中で、最大規模の地震と同程度の規模の地震が、続いて発生しやすい特徴がある。今後の地震活動の予測は出来ないが、当面の間、同程度以上の地震に注意が必要である。

○　南西諸島の北西側には沖縄トラフの拡大に伴う活構造が存在しており、今回の地震活動域の周辺にも、多くの断層変位地形が見られる。